

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学	平成17年度	奥村 紀美	3	通年	2	必

[授業の目標]

国語Ⅰ・Ⅱの内容を受け、さらに深い文章の読解力と、漢字・語彙などの知識を身における。また、人生の様々な局面を示す文学作品は自己の人生を模索・発見するきっかけを与えてくれることを学ぶ。そこで本講義では、様々な作品（小説・随筆・評論・詩歌、等）を学習し、近代の日本文学全般に対する理解と認識を深めることを目標とする。

[授業の内容]

すべての内容はJABEE基準1(1)の(a)、および学習・教育目標(A)の<視野>に対応する。

前期

第1週 随筆 知識の扉—まなぶことの身体性(港千尋)①

第2週 随筆 知識の扉—まなぶことの身体性(港千尋)②

第3週 随筆 知識の扉—まなぶことの身体性(港千尋)③

第4週 小説 蠅(横光利一)①

第5週 小説 蠅(横光利一)②

第6週 小説 蠅(横光利一)③

第7週 小説 蠅(横光利一)④

第8週 前期中間試験

第9週 前期中間試験の反省

第10週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)①

第11週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)②

第12週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)③

第13週 評論 文学のふるさと(坂口安吾)④

第14週 俳句 現代の俳句①

第15週 短歌 現代の短歌①

後期

第1週 前期末試験反省

第2週 詩 表札(石垣りん)①

第3週 詩 表札(石垣りん)②

第4週 小説 高瀬舟(森鷗外)①

第5週 評論 高瀬舟(森鷗外)②

第6週 評論 高瀬舟(森鷗外)③

第7週 評論 高瀬舟(森鷗外)④

第8週 後期中間試験

第9週 後期中間試験反省

第10週 評論 未来のいのち(原田正純)①

第11週 評論 未来のいのち(原田正純)②

第12週 評論 未来のいのち(原田正純)③

第13週 小説 誰を方舟に残すか(武田泰淳)①

第14週 小説 誰を方舟に残すか(武田泰淳)②

第15週 小説 誰を方舟に残すか(武田泰淳)③

年間授業の反省・授業反省アンケート

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本文学(つづき)	平成17年度	奥村 紀美	3	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1、それぞれの教材文をよく読解し、内容を自分のものとする ことができる。</p> <p>2、教材本文や漢字テキストに出てきた漢字・語句について、正 確な読み書きと用法を習得する。</p> <p>3、随筆「知識の扉」、評論文「文学のふるさと」、評論文「未 来のいのち」においては、作者の表現意図を理解し、論理の 展開を把握することができる。</p> <p>4、小説文「蠅」、「高瀬舟」、「誰を方舟に残すか」におい てはあらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解するこ とができる。</p> <p>5、文学作品「蠅」、「高瀬舟」、「誰を方舟に残すか」におい ては、鑑賞能力を養い、読解後自分なりの感想を文章にまと めることができる。</p>	<p>6、文学作品「蠅」、「高瀬舟」においては、作品が書かれた時 代背景について理解し、作者に関する文学史的知識を身につけ る。</p> <p>7、評論文「文学のふるさと」、「未来のいのち」の各段落、お よび全体の要旨をまとめることができる。</p> <p>8、詩歌教材をヒントにして、自らの心情を作品として表現す ることができる。</p> <p>9、学習したことを踏まえ、自分の意見を「公の言葉」で口頭発 表できる能力を身につける。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>授業中は学習に集中し、内容に対して真摯、かつ積極的に取り組むこと。疑問が生じたら直ちに質問すること。出された課題は、その都度必ず提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 国語Ⅰ・Ⅱの学習内容全般。</p>	
<p>[レポート等] 授業内容をノートに書写、まとめること。さらに理解を深めるため、随時、演習課題を与える。また漢字・語句に関する小テスト等を10回程度課する。さらに夏休みの宿題として課題図書による読書感想文を課する。</p>	
<p>教科書：「現代文」（教育出版）、「国語総合」（教育出版）</p> <p>参考書：「増補改訂 新訂総合国語便覧」（第一学習社）、「改訂版 漢字とことば常用漢字アルファ」（桐原書店）、「新選国語辞典 第八版ワイド版」（小学館）、「新版漢語林 第2版」（大修館書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験の平均点を60%、課題（レポート）20%、小テストの結果を20%として評価する。またレポート・課題等提出物の期限は厳守とし、遅れたものについては一週間遅れにつき2点減点の対象とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験、小テスト、提出課題（レポート）により、学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分	平成17年度	横山 定晴	3	通年	3	必

[授業の目標] 2年生に引き続いて、微分積分学の学習を行う。微分積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる学問である。前半は微分の学習をさらに深めて行く。半ば頃から独立変数が2つの関数の微分（偏微分）とその応用について述べる。さらに、2変数の関数の積分について学習する。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標(B) <基礎> および JABEE 基準 1(1)(c) に対応する。

前期

- 第1週 2年微分の復習
- 第2週 2年微分の復習
- 第3週 第2次導関数と曲線の凹凸(1)
- 第4週 第2次導関数と曲線の凹凸(2)
- 第5週 逆関数と導関数
- 第6週 曲線の媒介変数表示と微分
- 第7週 復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 極座標表示と曲線
- 第10週 平均値の定理と応用
- 第11週 テイラーの定理(1)
- 第12週 テイラーの定理(2)
- 第13週 2変数関数のグラフ
- 第14週 2変数関数の極限
- 第15週 偏導関数の定義

後期

- 題1週 偏導関数の計算
- 第2週 合成関数の偏導関数
- 第3週 2変数関数の極大と極小(1)
- 第4週 2変数関数の極大と極小(2)
- 第5週 陰関数定理
- 第6週 条件付き極値問題
- 第7週 復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 二重積分の定義
- 第10週 二重積分と累次積分
- 第11週 積分の順序変更
- 第12週 体積計算への応用
- 第13週 極座標による重積分
- 第14週 広義積分への応用
- 第15週 復習と演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分	平成17年度	横山 定晴	3	通年	3	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生の範囲の微分に関する知識が定着していること。 2. 第2次導関数とその曲線の形状との関係が理解できる。 3. 曲線の媒介変数表示とその接ベクトルの概念が理解できる。 4. 平均値の定理を理解しロピタルの定理に基づいて極限計算ができる。 5. テイラーの定理を理解し、関数のテイラー展開の計算ができる。 6. 2変数関数のグラフ(曲面)を理解できる。 7. 偏導関数の意味を理解し計算することができる。 8. 合成関数の偏導関数を理解しその計算を行うことができる。 9. 2変数関数の極値を理解し簡単な関数について極値を求めることができる。 10. 陰関数の微分を計算できる。 11. 二重積分の概念と性質を理解できる。 12. 二重積分と累次積分の関係が理解し計算をすることができる。 13. 極座標変換による二重積分の計算をすることができる。 14. 二重積分を用いて立体の体積を計算できる。 	
<p>[注意事項] 授業中とテスト直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習も大切にしてください。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 2年生で学んだ基礎的な微分積分の計算については、よく習熟していることを期待します。</p>	
<p>[レポート等] 夏期、冬期休業に課題を出します。適宜小テスト、宿題を課します。また必要に応じて補習、レポート、再試を課します。</p>	
<p>教科書：「新編高専の数学3」 田代嘉宏他(森北出版) 参考書：「新編高専の数学2,3問題集」 田代嘉宏他(森北出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>4回の定期試験(前期中間、前期末、後期中間、学年末)の平均点で評価する。ただし、学年末試験を除く3回の試験が60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分	平成17年度	斎藤 洪一	3	通年	2	必

[授業の目標]

1. 微分積分 で学習した内容に続き、1変数関数の積分の学習を更に深めて行く。その結果を面積体積等の計算に応用する。
2. 工学の諸分野の理解には線形代数の理解が必要である。行列式に関する学習を行う。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標(B) <基礎> および JABEE 基準 1(1)(c)に対応する。

前期

- 第1週 2年生範囲の積分の復習(積分の基本性質)
- 第2週 2年生範囲の積分の復習(積分の基本公式)
- 第3週 2年生範囲の積分の復習(置換積分)
- 第4週 2年生範囲の積分の復習(部分積分)
- 第5週 無理関数の積分
- 第6週 分数関数の積分(1)
- 第7週 総合的な復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 分数関数の積分(2)
- 第10週 3角関数の積分(1)
- 第11週 3角関数の積分(2)
- 第12週 様々な関数の積分
- 第13週 和の極限值としての定積分
- 第14週 面積の計算
- 第15週 総合的な復習と演習

後期

- 第1週 体積の計算
- 第2週 曲線の長さ(1)
- 第3週 曲線の長さ(2)
- 第4週 広義積分
- 第5週 行列式の定義
- 第6週 行列式の性質
- 第7週 復習と演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 行列式の展開と積
- 第10週 逆行列
- 第11週 連立1次方程式
- 第12週 行列の固有値と対角化(1)
- 第13週 行列の固有値と対角化(2)
- 第14週 行列の固有値と対角化(3)
- 第15週 総合的な復習と演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
微分積分	平成17年度	斎藤 洪一	3	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生の範囲の積分に関する知識が定着していること。 2. いろいろな関数（無理関数, 分数関数, 三角関数等）の積分の計算ができる。 3. 区分求積法と積分の関係が理解できる。 4. 積分の応用として面積, 体積, 長さを計算することができる。 5. 広義積分の概念理解しその計算を行うことができる。 6. 行列式の概念と性質を理解できる。 7. 行列式の計算を行うことができる。 8. 行列の正則条件と行列式の間を関係し逆行列の計算を行うことができる。 9. クラームルの公式を理解し計算を行うことができる。 10. 行列の固有値、固有ベクトルの性質を理解し、計算することができる、 	
<p>[注意事項] 授業中とテスト直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習も大切にしてください。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 2年生で学んだ基礎的な微分積分の計算については、よく習熟していることを期待します。</p>	
<p>[レポート等] 夏期、冬期休業に課題を出します。適宜小テスト、宿題を課します。また必要に応じて補習、レポート、再試を課します。</p>	
<p>教科書：「新編高専の数学3」 田代嘉宏他（森北出版） 参考書：「新編高専の数学2, 3問題集」 田代嘉宏他（森北出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 4回の定期試験（前期中間、前期末、後期中間、学年末）の平均点で評価する。ただし、学年末試験を除く3回の試験が60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅲ	平成17年度	三上 明洋	3	通年	2	必

【授業の目標】

英語Ⅰ・Ⅱで学習し身につけた英語の知識・技能を活用し、外国映画を題材に、そこに使われている英語表現を学習すると同時に、その背景にある外国文化の理解を深めることを目的とする。

【授業の内容】 すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞
[JABEE 基準 1(1) (a)]および (C) ＜英語＞[JABEE 基準 1(1) (f)]
に対応する。

【前期】

第1週 授業の概要説明
第2・3週 Unit 1
第4・5週 Unit 2
第6・7週 Unit 3
第8週 前期中間試験
第9・10週 Unit 4
第11・12週 Unit 5
第13・14週 Unit 6
第15週 まとめ、演習

【後期】

第1・2週 Unit 7
第3・4週 Unit 8
第5・6週 Unit 9
第7週 まとめ、演習
第8週 後期中間試験
第9・10週 Unit 10
第11・12週 Unit 11
第13・14週 Unit 12
第15週 まとめ、演習

【この授業で習得する「知識・能力」】

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習した映画のシーンを見て、その大まかな内容が理解できる。 2. 学習した映画のシーンに関する質問に簡単な英語で答えることができる。 3. 学習した映画のシーンで使われている英単語・熟語・構文を聞いてその意味を理解し、その英語を書くことができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 学習した映画のシーンにおける台詞を適切に使って表現することができる。 5. 学習した映画のシーンに出てくる文法事項が理解できる。 6. 映画の背景にある外国文化の影響を理解することができる。 |
|--|--|

【注意事項】 授業時間はもちろん、それ以外の時間にも、自ら進んで多くの英語に触れることが望ましい。その手助けとなるよう、授業に関連した課題、レポートを課すことがあるので、提出期限を守り、計画的に学習を進めるよう努力すること。

【あらかじめ要求される基礎知識の範囲】 英語Ⅰ・Ⅱで身につけた英語運用能力

【レポート等】 授業内容と関連した課題、レポートを与える。

教科書：ミュージック・オブ・ハートー映画・音楽・リスニングー (英宝社)

参考書：工業英語ハンドブック (日本工業英語協会)

【学業成績の評価方法および評価基準】

定期試験、中間試験の結果を6割、課題(レポート)・小テスト・口頭発表の結果を2割、語彙テストの結果を2割とし、その合計点で評価する。ただし、前・後期中間試験及び前期末試験で60点に達していない者には再試験を課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。

【単位修得要件】

学業成績で60点以上を取得すること。また、英語科が定期的実施する語彙テストで6割以上正解すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎	平成17年度	数学科全員	3	後期	1	必

[授業の目標]

現在までに学んだ数学の中で、専門分野の理解に必要な最低限度の数学知識が身についているか否かを示す。

[授業の内容]

すべての授業の内容は、学習・教育目標(B) <基礎> 及び Jabee 基準1の(1)(c)に対応する。

第1週 2次関数・方程式・不等式

第2週 恒等式・高次方程式・不等式

第3週 三角関数

第4週 三角関数

第5週 いろいろな関数

第6週 平面図形とベクトル

第7週 復習と演習

第8週 中間試験

第9週 微分

第10週 微分

第11週 微分

第12週 積分

第13週 積分

第14週 積分

第15週 復習と演習

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 数式を整理でき、基本的な方程式や不等式の解が求められる。
2. 2次関数に関する基本を理解している。
3. 指数 対数に関する基本を理解しその計算ができる。
4. 三角関数に関する基本を理解しその計算ができる。
5. 平面上の図形(点、距離、直線等)の基本を理解している
6. 直線、円等の方程式と幾何的な対象物の対応ができる。
7. 基本的な関数の極限計算ができる。

8. 基本的な関数(有理関数、指数対数関数、三角関数等)の微分を求めることができる。

9. 関数の増減と微分の関係を理解し、関数のグラフを書くことができ、極値を求めることができる。

10. 関数の微分と関数のグラフと接線の間関係を理解している。

11. ベクトルの基本を理解している。

12. 基本的な積分の計算ができる。

13. 積分の応用として2次元図形の面積の計算に適用できる。

[注意事項] 専門分野を理解してゆくための欠くことのできない予備知識である。したがって、完璧に理解してください。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1, 2 学年で学んだ基本的な事柄。

[レポート等] 理解を深めるため、毎回、演習課題を与える。

教科書: 本校数学科作成の問題集。

参考書: 「新編高専の数学1-3」(森北出版)、「新編高専の数学1-3 問題集」(森北出版)、本校数学教室のホームページ

[学業成績の評価方法および評価基準]

2回の定期試験(後期中間、学年末)の平均点で評価する。ただし、後期中間試験が60点に達しなかった者には再試験を課し、再試験の成績が上回った場合には、60点を上限として後期中間試験の成績を置き換えるものとする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
(総合基礎)物理	平成17年度	土田・大矢・田村	3	後期	1	必

[授業の目標]

1年から3年生まで習ったことを、問題演習を中心として総復習し、理解を確実にし、物理の実力を付ける。

[授業の内容] 第1週～第15週の内容はすべて、材料工科学学習・教育目標(B)<基礎>さらに JABEE 基準 1(1)(c)に相当する。

授業は問題演習を中心とする。

問題集ステップ1の問題の理解を確実にする。

ステップ1の問題が理解できたものは、ステップ2の問題を行う。

第1週 運動と力

第2週 物体の運動

第3週 力と運動

第4週 力と運動()

第5週 運動量

第6週 仕事と力学エネルギー

第7週 力学総合問題

第8週 中間試験

第9週 波の性質

第10週 電界と電位

第11週 電界と電位

第12週 電流回路

第13週 電流回路

第14週 電流回路

第15週 総合問題

[この授業で習得する「知識・能力」]

1年から3年生に習った物理の基礎的内容(物理1Bの教科書に書かれている内容)を確実に理解すること。

特に

1. 等加速度直線運動について、運動方程式を作り運動が計算できる。
2. エネルギー保存の法則を使った物体の運動の計算ができる。
3. 波の基礎が理解されている。

4. 電界、電位が理解され、これらを含む計算ができる。

5. 抵抗の直列、並列接続を含む回路の電流、電圧の計算ができる。

6. キルヒホッフの計算ができる。

[注意事項] 習熟度別のクラス編成にするが、試験は、統一問題で行う。試験は、基本問題(問題集のステップ1のレベル)を主にするが、ステップ2のレベルからも出題の予定である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1～3年生の物理の基礎を理解している。範囲が広く、一夜漬けの勉強では実力を付けられない。

理解していないものは、日頃、あるいは夏休みなどを利用して、自宅で復習すること。

[レポート等] 理解を深めるため、定期試験以外にテストを行う。

教科書: センサー物理、センサー物理 (問題集) (啓林館)

[学業成績の評価方法および評価基準] 後期中間・学年末の2回の試験の平均点で評価する。ただし、後期中間試験で60点を取得できなかった場合にはそれを補うための再試験を行う。その場合の評価は、60点を限度とする。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語 A1）	平成17年度	Mike Lawson, Ph. D.	3	平成17年度 後期	1	必

<p>[授業の目標]</p> <p>Basing class activities on various cross-cultural themes, the objective of this course is to further improve students' reading comprehension, listening comprehension, and oral communication abilities.</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>Week</p> <p>1 Introduction to the course</p> <p>2 Unit 13—The business of beauty</p> <p>3 Unit 14—A career in fashion (Quiz 1)</p> <p>4 Unit 15—The pressure to look good (Quiz 2)</p> <p>5 Unit 17—Fight for your rights (Quiz 3)</p> <p>6 Unit 18—Staying young (Quiz 4)</p> <p>7 REVIEW (Quiz 5)</p> <p>8 MIDTERM EXAM</p>	<p>Week</p> <p>09 Unit 19—Seeing the world</p> <p>10 Unit 20—Time for a vacation (Quiz 6)</p> <p>11 Unit 21—Great explorers (Quiz 7)</p> <p>12 Unit 22—Male and female roles (Quiz 8)</p> <p>13 Unit 23—Women fighting back (Quiz 9)</p> <p>14 Unit 24—How different are we? (Quiz 10)</p> <p>15 REVIEW</p>
<p>[到達目標]（この授業で習得すべき知識・能力）</p> <p>At a level suited for second semester third year students, students will:</p> <p>1. Continue to develop their reading comprehension ability;</p> <p>2. Continue to develop their listening comprehension ability;</p> <p>3. And will continue to improve their ability to communicate orally using the English language.</p>	<p>Students will continue to develop their reading, listening and speaking skills from a cross-cultural context, with an emphasis on Western culture.</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. Each student is required to wear a large nametag written in English.</p> <p>2. All students will be held to the highest standards of academic honesty. Consequently, students are advised that any act of academic dishonesty (cheating, such as copying from another student's exam during a test or quiz) will be subject to penalty, including a grade of zero (0 points) on the work in question. Please conduct yourself accordingly.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>A good understanding of basic English language rules and vocabulary. Basic reading and listening comprehension ability.</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書：1. Text: Craven, Miles. <i>Reading Keys (Silver, Book B)</i>. Macmillan Languagehouse.</p> <p>参考書：2. Subtext: A Japanese-English dictionary and an English grammar guide.</p> <p>3. Material as distributed in class.</p> <p>4. コンパクト英語構文90（数研出版）</p>	
<p>[単位修得要件] Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.</p> <p>[学業成績の評価方法] <u>Method of Evaluation:</u> 1/3 Midterm exam, 1/3 Final Exam, 1/3 Quizzes.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語 A2）	平成17年度	中井 洋生	3	後期	1	選（必）

<p>[授業の目標]</p> <p>英語 I・II で習得した英語の知識・技能を活用し、まとまりのある文章をできる限り速く正確に読む方法を学習するとともに、その基礎となる英語構文を学習する</p>	
<p>[授業の内容] 第1週から第15週までの内容はすべて、機械工 学科学習・教育目標（A）および（C）の項目に相当する</p> <p>第1週 Introduction 第2週 1.1. 資源 英語構文テスト（1） 第3週 1.2. 地震の予知 英語構文テスト（2） 第4週 1.3. 由来・歴史 英語構文テスト（3） 第5週 1.4. 生き方 英語構文テスト（4） 第6週 1.5. 教育 英語構文テスト（5） 第7週 Review 第8週 後期中間試験</p>	<p>第9週 Review 第10週 1.6. 哲学 英語構文テスト（6） 第11週 1.7. Self-help 英語構文テスト（7） 第12週 1.8. 情報 英語構文テスト（8） 第13週 1.9. 日本人論 英語構文テスト（9） 第14週 2.0. ジェンダー 英語構文テスト（10） 第15週 Review</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. まとまりのある英文の内容が理解できる 2. まとまりのある英文の流れをつかみながら、できる限り速く正確に内容を読み取ろうとすることができる</p>	<p>3. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語が書ける 4. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる 5. 教科書本文に関連した英文を聞き取ることができる。 6. 基礎的な英語構文の意味を理解し、それらを使った簡単な英文が書ける</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 積極的に授業に参加する（自主的に発表する習慣をつける）。 2. 自学自習を習慣づけて、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 I・II で身につけた知識、技能</p>	
<p>[レポート等] 授業内容に関連した課題、レポートを適宜与える。また、定期的に英語構文に関するテストを行う</p>	
<p>教科書：現代を読む（桐原書店） 参考書：コンパクト英語構文 90（数研出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の成績を7割、小テストの成績を3割として評価する。中間試験が60点に達していない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語B2）	平成17年度	長井みゆき	3	後期	1	選（必）

<p>[授業の目標]</p> <p>既習の文法事項を復習し、それらを含む基本的な英語構文の意味・用法を理解し、それらを使って英語で表現できる力を養う</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標（C）と JABEE 評価基準 1 (f) に対応する</p> <p>第1週 授業の概要説明 助動詞を含む構文（1）</p> <p>第2週 助動詞を含む構文（2）</p> <p>第3週 仮定法を用いた構文（1）</p> <p>第4週 仮定法を用いた構文（2）</p> <p>第5週 接続詞を含む構文（1）</p> <p>第6週 接続詞を含む構文（2）</p> <p>第7週 まとめと演習</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 比較構文（1）</p> <p>第10週 比較表現（2）</p> <p>第11週 譲歩構文</p> <p>第12週 無生物主語を含む構文</p> <p>第13週 間接疑問、同格、強調・倒置</p> <p>第14週 名詞構文</p> <p>第15週 まとめと演習</p> <p>第16週 定期試験</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1 「授業の内容」に示した構文を含む英語の意味・用法を理解することができる</p> <p>2 「授業の内容」に示された構文を使って、簡単な事柄について英語で表現することができる。</p>	<p>3 教科書の英文中の英単語、熟語の意味の理解、およびその英語が書ける。</p>
<p>[注意事項] 授業で扱われる文法・構文はすべて基本的で重要なものであるため、繰り返し学習・訓練し確実に身につけること。 授業内容と関連したワークブックを併用する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 I・II で身につけた基本的な文法事項。</p>	
<p>[レポート等] 適宜、英語構文に関する課題をだす。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90（数研出版）、コンパクト英語構文90ワークブック（数研出版） 参考書等：チャート式 LEARNERS' 高校英語（数研出版）／ルミナス英和辞典（研究社）</p>	
<p>【学業成績の評価方法および評価基準】</p> <p>中間・定期試験の結果を6割、小テスト・授業時の成績を2割、課題を2割として100点法で評価する。ただし、前半の成績（中間試験・小テスト・授業時・課題）が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
(総合基礎) 英語 B 2	平成 1 7 年度	松林嘉熙	3	後期	1	選 (必)

<p>[授業の目標]</p> <p>既習の文法事項を復習し、それらを含む基本的な英語構文の意味・用法を理解し、それらを使って英語で表現できる力を養う</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標 (C) と JABEE 評価基準 1 (1) (f) に対応する</p> <p>第 1 週 授業の概要説明 助動詞を含む構文 (1)</p> <p>第 2 週 助動詞を含む構文 (2)</p> <p>第 3 週 仮定法を用いた構文 (1)</p> <p>第 4 週 仮定法を用いた構文 (2)</p> <p>第 5 週 接続詞を含む構文 (1)</p> <p>第 6 週 接続詞を含む構文 (2)</p> <p>第 7 週 まとめと演習</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>第 9 週 比較構文 (1)</p> <p>第 10 週 比較表現 (2)</p> <p>第 11 週 譲歩構文</p> <p>第 12 週 無生物主語を含む構文</p> <p>第 13 週 間接疑問、同格、強調・倒置</p> <p>第 14 週 名詞構文</p> <p>第 15 週 まとめと演習</p> <p>第 16 週 定期試験</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1 「授業の内容」に示した構文を含む英語の意味・用法を理解することができる</p> <p>2 「授業の内容」に示された構文を使って、簡単な事柄について英語で表現することができる。</p>	<p>3 教科書の英文中の英単語、熟語の意味の理解、およびその英語が書ける。</p>
<p>[注意事項] 授業で扱われる文法・構文はすべて基本的で重要なものであるため、繰り返し学習・訓練し確実に身につけること。 授業内容と関連したワークブックを併用する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 I・II で身につけた基本的な文法事項。</p>	
<p>[レポート等] 適宜、英語構文に関する課題をだす。</p>	
<p>教科書 : コンパクト英語構文 90 (数研出版)、コンパクト英語構文 90 ワークブック (数研出版)</p> <p>参考書等 : チャート式 LEARNERS' 高校英語 (数研出版) / ルミナス英和辞典 (研究社)</p>	
<p>【学業成績の評価方法および評価基準】</p> <p>定期試験、中間試験の結果、および授業中適宜実施する小試験の成績、ノート、レポートの評点等のすべてを合算したものを満点との比によって評価する。ただし最終評価には、クラス編成時のデータに基づくクラス間の習熟度差を補正反映させる。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
総合基礎（英語）C	平成17年度	出口芳孝	3	後期	1	選（必）

<p>[授業の目標]</p> <p>英語Ⅱで学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、簡単な英語を活用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞＜意欲＞及び(C)の＜英語＞に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 Introduction 仮定法を含む構文(1)</p> <p>第2週 仮定法を含む構文(2)</p> <p>第3週 接続詞を含む構文(1)</p> <p>第4週 接続詞を含む構文(2)</p> <p>第5週 比較構文(1)</p> <p>第6週 比較構文(2)</p> <p>第7週 譲歩構文</p> <p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 無生物主語を含む構文</p> <p>第10週 間接疑問・同格</p>	<p>第11週 強調構文・倒置構文</p> <p>第12週 名詞構文・省略・不定代名詞・再起代名詞</p> <p>第13週 まとめと演習(1) 仮定法・接続詞</p> <p>第14週 まとめと演習(2) 比較・譲歩</p> <p>第15週 まとめと演習(3) 無生物主語・間接疑問</p>
<p>[この授業で修得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p> <p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p>	<p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p> <p>5. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[注意事項] 毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業に参加すること。学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等] 上記「知識・能力」を確認するため随時小テストを課す。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90（数研出版）</p> <p>参考書：チャート式 LEARNER'S 高校英語（数研出版）、カレッジライトハウス英和辞典、</p>	
<p>[学業成績の評価方法]</p> <p>中間・定期試験の結果を6割、小テスト・授業時の成績を2割、課題を2割として100点法で評価する。ただし、前半の成績（中間試験・小テスト・授業時・課題）が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育	平成17年度	宮崎 雄三	3	通年	2	必

[授業の目標]

各運動を通じて、基本的な運動能力の向上と基本的技能の習得を図る。ゲームや集団競技において協調性や個人の役割を自覚し、チームの力量に応じた練習やゲームができるようにする。余暇活動の一環として、運動を楽しみ、実践することによって活動的で豊かな生活を助長し、心身の健全な発達を促す。

[授業の内容]

前期

- 第1週 スポーツテスト
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 バレーボール基本練習(パス、トス、サーブ)
- 第4週 バレーボール基本練習(アタック、ブロック、レシーブ)
- 第5週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第6週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第7週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第8週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第9週 バレーボール基本練習、ゲーム
- 第10週 水泳(平泳ぎ、クロール、背泳)
- 第11週 水泳
- 第12週 水泳
- 第13週 水泳
- 第14週 バレーボール、ゲーム
- 第15週 バレーボール、ゲーム

後期

- 第1週 サッカー基本練習(キック、ドリブル、リフティング)
 - 第2週 サッカー基本練習(パス、トラップ)、ミニゲーム
 - 第3週 サッカー基本練習、ミニゲーム
 - 第4週 サッカー基本練習、ミニゲーム
 - 第5週 サッカー基本練習、ミニゲーム
 - 第6週 サッカーゲーム
 - 第7週 サッカーゲーム
 - 第8週 サッカー実技テスト
 - 第9週 長距離走、サッカーゲーム
 - 第10週 長距離走、サッカーゲーム
 - 第11週 長距離走、サッカーゲーム
 - 第12週 長距離走、サッカーゲーム
 - 第13週 長距離走、サッカーゲーム
 - 第14週 サッカーゲーム
 - 第15週 サッカーゲーム
- (雨天時は、バドミントン)

[この授業で習得する「知識・能力」]

- 1、バレーボールの対人パス(ロングパス、バックパス)とサーブが正確に出来るか。
- 2、バレーの連続トス(オーバー・アンダートス)が20回出来るか。
- 3、水泳において3種目25M完泳できるか。1種目100M完泳できるか。

- 1、サッカーにおいてリフティング(インステップ、もも)とトラップが正確にできるか。
- 2、長距離走では、前年度より記録更新に向かって努力できたか。

[注意事項]

- 1、服装は、学校指定の体操服、シューズを使用すること。
- 2、日直は、事前に担当教官の指示を受け、クラスの学生に連絡を徹底すること。
- 3、病気、ケガ等で見学する時は、事前に届けること。
- 4、水泳、長距離走において身体に障害(内臓疾患、皮膚病等)のある学生は、医師の診断書を提出すること。
- 5、バレーボールの授業は、第2体育館において実施する。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

バレーボール、サッカーについての試合上のルールを覚えておくこと。

[レポート、教科書、参考書]

[学業成績の評価方法および評価基準]

実技テストによる評価を80点、授業に対する姿勢(出席状況、授業態度)を20点として100点法で評価する。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講 A	10172	齊藤 園子	3	前期	1	選(必)

<p>[授業の目標]</p> <p>英語 ・ で習得した英語の知識・技能を活用し、まとまりのある文章をできる限り速く正確に読む方法を学習する</p>	
<p>[授業の内容] 第1週から第15週までの内容はすべて、学習・教育目標 (A) および (C) の項目に相当する</p> <p>第1週 Introduction</p> <p>第2週 1. ある名判事の判決</p> <p>第3週 2. 昔々</p> <p>第4週 3. 感謝の気持ち</p> <p>第5週 4. 新聞配達少年と未亡人</p> <p>第6週 5. サンタクロースの起源</p> <p>第7週 6. コンピュータはどれだけ教育に有効か</p> <p>第8週 前期中間試験</p>	<p>第9週 Review</p> <p>第10週 7. ディズニー成功の秘密</p> <p>第11週 8. 西洋音楽の普及の歴史</p> <p>第12週 9. 障害との闘い</p> <p>第13週 10. エコツーリズム</p> <p>第14週 11. 幫助による自殺 その是非</p> <p>第15週 12. ヒマラヤの環境保護</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. まとまりのある英文の内容が理解できる</p> <p>2. まとまりのある英文の流れをつかみながら、できる限り速く正確に内容を読み取るうとすることができる。</p>	<p>3. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語が書ける。</p> <p>4. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる。</p> <p>5. 教科書本文に関連した英文を聞き取ることができる。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 積極的に授業に参加する (自主的に発表する習慣をつける)。</p> <p>2. 自学自習を習慣づけて、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 ・ で身につけた知識、技能</p>	
<p>[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを与える。</p>	
<p>教科書 : Take Pleasure in Your English Reading [数研出版]</p> <p>参考書 : コンパクト英語構文 100 (数研出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を8割、小テストの成績を2割として評価する。ただし、クラス編成時のデータに基づいてクラス間の習熟度差を補正反映させて評価する。また、前半の成績 (中間試験・小テスト) が60点に達していない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講 A1	平成17年度	Mike Lawson, Ph.D.	3	平成17年度 前期	1	必

<p>[授業の目標]</p> <p>Basing class activities on various cross-cultural themes, the objective of this course is to improve students' reading comprehension, listening comprehension, and oral communication abilities.</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>Week</p> <p>1 Introduction to the course</p> <p>2 Unit 1—Student days</p> <p>3 Unit 2—Studying abroad (Quiz 1)</p> <p>4 Unit 3—Alternative education (Quiz 2)</p> <p>5 Unit 4—Talking through problems (Quiz 3)</p> <p>6 Unit 6—That's our custom (Quiz 4)</p> <p>7 REVIEW (Quiz 5)</p> <p>8 MIDTERM EXAM</p>	<p>Week</p> <p>09 Unit 7—Musical memories</p> <p>10 Unit 8—Getting to the top(Quiz 6)</p> <p>11 Unit 9—Simply amazing (Quiz 7)</p> <p>12 Unit 10—What makes you happy? (Quiz 8)</p> <p>13 Unit 11—Help yourself to health (Quiz 9)</p> <p>14 Unit 12—Think positive! (Quiz 10)</p> <p>15 REVIEW</p>
<p>[到達目標] (この授業で習得すべき知識・能力)</p> <p>At a level suited for first semester third year students, students will:</p> <p>1. Develop their reading comprehension ability;</p> <p>2. Develop their listening comprehension ability;</p> <p>3. And will improve their ability to communicate orally using the English language.</p>	<p>Students will develop their reading, listening and speaking skills from a cross-cultural context, with an emphasis on Western culture.</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. Each student is required to wear a large nametag written in English.</p> <p>2. All students will be held to the highest standards of academic honesty. Consequently, students are advised that any act of academic dishonesty (cheating, such as copying from another student's exam during a test or quiz) will be subject to penalty, including a grade of zero (0 points) on the work in question. Please conduct yourself accordingly.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>A good understanding of basic English language rules and vocabulary.</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書 : 1. Text: Craven, Miles. <i>Reading Keys (Silver, Book A)</i>. Macmillan Languagehouse.</p> <p>参考書 : 2. Subtext: A Japanese-English dictionary and an English grammar guide.</p> <p>3. Material as distributed in class.</p>	
<p>[学業成績の評価方法]</p> <p>Method of Evaluation: 1/3 Midterm exam, 1/3 Final Exam, 1/3 Quizzes.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講 A2	平成17年度	中井 洋生	3	前期	1	選(必)

<p>[授業の目標]</p> <p>英語 I・II で習得した英語の知識・技能を活用し、まとまりのある文章をできる限り速く正確に読む方法を学習する</p>	
<p>[授業の内容] 第1週から第15週までの内容はすべて、学習・教育目標 (A) および (C) の項目に相当する</p> <p>第1週 Introduction 第2週 1. 自然保護 第3週 2. メディア 第4週 3. 睡眠 第5週 4. アメリカ社会 第6週 5. 南北問題 第7週 時事英文を読む (1) 第8週 前期中間試験</p>	<p>第9週 Review 第10週 6. 人体 第11週 7. エッセイ 第12週 8. 言語 第13週 9. 喫煙 第14週 10. コミュニケーション 第15週 時事英文を読む (2)</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. まとまりのある英文の内容が理解できる 2. まとまりのある英文の流れをつかみながら、できる限り速く正確に内容を読み取ろうとすることができる。</p>	<p>3. 教科書本文に出てきた英単語、熟語、構文の意味の理解およびその英語が書ける。 4. 教科書本文に出てきた文法事項が理解できる。 5. 教科書本文に関連した英文を聞き取ることができる。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 積極的に授業に参加する (自主的に発表する習慣をつける)。 2. 自学自習を習慣づけて、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 英語 I・II で身につけた知識、技能</p>	
<p>[レポート等] 授業内容と関連した課題、レポートを与える。</p>	
<p>教科書: 現代を読む [桐原書店] 参考書: コンパクト英語構文90 (数研出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を8割、小テストの成績を2割として評価する。ただし、クラス編成時のデータに基づいてクラス間の習熟度差を補正反映させて評価する。また、前半の成績 (中間試験・小テスト) が60点に達していない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講B1	平成17年度	長井みゆき	3	前期	1	選(必)

<p>[授業の目標]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習した事項を復習し、基本的な英語構文の意味、用法を理解し、それらを使い、英語で表現できる力を養う。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)〈視野〉〈意欲〉及び(C)の〈英語〉に対応する。</p> <p>第1週 授業の概要説明 基本文型</p> <p>第2週 it中心の構文(1)</p> <p>第3週 it中心の構文(2)</p> <p>第4週 不定詞を含む構文(1)</p> <p>第5週 不定詞を含む構文(2)</p> <p>第6週 分詞を含む構文(1)</p> <p>第7週 分詞を含む構文(2)</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 動名詞を含む構文(1)</p> <p>第10週 動名詞を含む構文(2)</p> <p>第11週 関係詞を含む構文(1)</p> <p>第12週 関係詞を含む構文(2)</p> <p>第13週 否定構文(1)</p> <p>第14週 否定構文(2)</p> <p>第15週 定期試験</p>
<p>[この授業で修得する「知識・能力」]</p> <p>1. 教科書掲載の構文を含む英語の意味・用法の理解。</p> <p>2. 教科書掲載の構文を用いた、簡単な事柄についての英語表現</p>	<p>3. 教科書掲載の英単語・熟語の意味の理解と記述。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 必ず予習をすること。 2. 積極的に授業に参加すること。 3. 学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p> <p>4. 毎回授業に使用するので、英和・和英辞書を持参すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等] ワークブックを利用し、授業と関連した練習問題を解き、適宜小テストも行う。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90(数研出版)、コンパクト英語構文90ワークブック(数研出版)</p> <p>参考書：前年度まで使用した教科書、参考書、および辞書(ルミナス英和)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・定期試験の結果を8割、小テストの成績を2割として評価する。ただし、クラス編成時のデータに基づいてクラス間の習熟度差を補正反映させて評価する。また、前半の成績(中間試験・小テスト)が60点に達していない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価する。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
(英語特講) B 2	平成17年度	松林嘉熙	3	前期	1	選(必)

<p>[授業の目標]</p> <p>英語Ⅰ・Ⅱで学習した事項を復習し、基本的な英語構文の意味、用法を理解し、それらを使い、英語で表現できる力を養う。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)〈視野〉〈意欲〉及び(C)の〈英語〉に対応する。</p> <p>第1週 授業の概要説明 基本文型</p> <p>第2週 it中心の構文(1)</p> <p>第3週 it中心の構文(2)</p> <p>第4週 不定詞を含む構文(1)</p> <p>第5週 不定詞を含む構文(2)</p> <p>第6週 分詞を含む構文(1)</p> <p>第7週 分詞を含む構文(2)</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 動名詞を含む構文(1)</p> <p>第10週 動名詞を含む構文(2)</p> <p>第11週 関係詞を含む構文(1)</p> <p>第12週 関係詞を含む構文(2)</p> <p>第13週 否定構文(1)</p> <p>第14週 否定構文(2)</p> <p>第15週 定期試験</p>
<p>[この授業で修得する「知識・能力」]</p> <p>1. 教科書掲載の構文を含む英語の意味・用法の理解。</p> <p>2. 教科書掲載の構文を用いた、簡単な事柄についての英語表現</p>	<p>3. 教科書掲載の英単語・熟語の意味の理解と記述。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 必ず予習をすること。 2. 積極的に授業に参加すること。 3. 学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p> <p>4. 毎回授業に使用するので、英和・和英辞書を持参すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等] ワークブックを利用し、授業と関連した練習問題を解き、適宜小テストも行う。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90(数研出版)、コンパクト英語構文90ワークブック(数研出版)</p> <p>参考書：前年度まで使用した教科書、参考書、および辞書(ルミナス英和)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験、中間試験の結果、および授業中適宜実施する小試験の成績、ノート、レポートの評点等のすべてを合算したものを満点との比によって評価する。ただし最終評価には、クラス編成時のデータに基づくクラス間の習熟度差を補正反映させる。</p> <p>【単位修得要件】</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語特講C	平成17年度	出口芳孝	3	前期	1	選(必)

<p>[授業の目標]</p> <p>英語ⅠⅡで学習した事項をもとに、基本的な英語構文に関する理解を深め、簡単な英語を活用する能力を育成する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞＜意欲＞及び(C)の＜英語＞に対応する。</p> <p>前期</p> <p>第1週 Introduction 基本文型(5文型)</p> <p>第2週 It 中心の構文(1)</p> <p>第3週 It 中心の構文(2)</p> <p>第4週 不定詞を含む構文(1)</p> <p>第5週 不定詞を含む構文(2)</p> <p>第6週 分詞を含む構文(1)</p> <p>第7週 分詞を含む構文(2)</p> <p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 動名詞を含む構文(1)</p> <p>第10週 動名詞を含む構文(2)</p>	<p>第11週 関係詞を含む構文(1)</p> <p>第12週 関係詞を含む構文(2)</p> <p>第13週 否定の構文(1)</p> <p>第14週 否定の構文(2)</p> <p>第15週 助動詞を含む構文</p>
<p>[この授業で修得する「知識・能力」]</p> <p>1. 英語の文型を利用して簡単な英文を作ることができる。</p> <p>2. 英文の要素を理解し、文を完成させることができる。</p> <p>3. 教科書にある構文を理解し、使用できる。</p>	<p>4. 教科書にある単語・熟語の意味を理解し、使うことができる。</p> <p>5. 目標達成のため自主的・継続的に学習できる。</p>
<p>[注意事項] 毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業に参加すること。学習した基本例文を暗唱できるようにしておくこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>英語Ⅰ、Ⅱで学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等] 上記「知識・能力」の達成度を確認するため随時小テストを課す。</p>	
<p>教科書：コンパクト英語構文90 (数研出版)</p> <p>参考書：チャート式 LEARNER'S 高校英語 (数研出版)、カレッジライトハウス英和辞典、</p>	
<p>[学業成績の評価方法]</p> <p>中間・定期試験の結果を6割、小テスト・授業時の成績を2割、課題を2割として100点法で評価する。ただし、前半の成績(中間試験・小テスト・授業時・課題)が60点を達成できない場合は、それを補うための再試験・課題を課し、60点を上限として再評価し前半の成績とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用物理	平成17年度	土田和明・田村陽次郎・ 濱谷芳幸	3	通年	2	必

[授業の目標]

1、高校教科書を使い、1，2年生で学んだ基礎の上により進んだ内容を学ぶ。

また、実験では物理学のいくつかのテーマを取り上げ、体験を通して自然界の法則を学ぶ。

[授業の内容] 前、後期とも、第1週～第15週の内容はすべて学習・教育目標(B)<基礎>(c)およびJABEE1基準(1)(c)に相当する。

前期

第1週 実験ガイダンス(1)

第2週 実験ガイダンス(2)

第3週から第9週までは下記の7テーマの実験をグループ別に行う。

1.分光計： 精密な角度測定器の分光計を用いて、ガラスの屈折率を求める。

2.レーザー光による光の干渉： 光の重要な性質である干渉回折をレーザー光を用いて観察する。

3.クントの実験： 音の定常波を作り基本音と倍音を理解する。

4.直線電流のまわりの磁界： 直流電流のまわりに出来る磁界の大きさを測定し、地磁気の水平分力を計算する。

5.磁力計による地磁気の水平分力の測定： 偏角磁力計、振動磁力計を用いて、地磁気の測定をする。

6.電子の比電荷(e/m)の測定： 電子の基本的定数をデモ用の装置を用いて測定する。

7.プランク定数の測定： 量子力学の基本定数をデモ用の装置を用いて測定する。

以下は「物理II」の教科書を中心に学ぶ

第11週 コンデンサー

第12週 コンデンサーの接続

第13週 第1節 電流 電気抵抗

第14週 電力とジュール熱

第15週 第2節 直流回路 抵抗の接続、電流計・電圧計

後期

第1週 電池の起電力と内部抵抗

第2週 キルヒホッフの法則

第3週 コンデンサーを含む回路

第4週 磁気力と磁界

第5週 電流が作る磁界

第6週 電流が磁界から受ける力

第7週 ローレンツ力

第8週 中間テスト

第9週 電磁誘導の法則

第10週 電磁誘導の法則

第11週 磁界中を運動する導体の棒

第12週 自己誘導と相互誘導

第13週 交流、交流の実効値

第14週 電気振動

第15週 電磁波

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用物理（つづき）	平成17年度	土田和明・田村陽次郎・ 濱谷芳幸	3	通年	2	必

<p>[この授業で習得する[知識・能力]]</p> <p>実験</p> <p>1. 実験を通して、基本的な機器の使い方が理解でき自分の力で実験を進める能力ができる。</p> <p>2. 分光計が理解できる。</p> <p>3. 音の定常波、基本音、倍音が理解できる。</p> <p>4. 電流により磁界が出来ることが理解できる。</p> <p>5. 磁気力が理解できる。</p> <p>6. 電子の磁界中の運動が理解できる。</p> <p>7. プランク定数が理解できる。</p> <p>講義</p> <p>8. コンデンサーの基本が理解できる。</p> <p>9. 電流と抵抗について画理解できる。</p> <p>10. ジュール熱が理解できる。</p>	<p>11. 直流回路の基本が理解できる。</p> <p>12. 電池の起電力と内部抵抗が理解できる。</p> <p>13. キルヒホッフの法則が理解できる。</p> <p>14. 磁界の定義が理解できる。</p> <p>15. 電流により磁界が発生することおよび電流と磁界との関係が理解できる。</p> <p>16. 電荷が磁界中で受ける力が理解できる。</p> <p>17. 電流と磁界との関係が理解できる。</p> <p>19. 電磁誘導について理解できる。</p> <p>20. 交流の基礎が理解できる。</p> <p>21. 電磁波の基礎が理解できる。</p>
--	---

[注意事項] 物理学は短期間で理解することは極めて難しい。日頃から自分で問題を解くなどの予習復習が重要である。表面的なものにとらわれず、根底にある普遍性を学ぶことが大切である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本校で課している数学、物理の1、2年生程度の基礎知識、及びレポート製作に必要な一般的国語の能力があればよい。

[レポート等] 実験のレポートの他に必要に応じて出題し、レポートの提出を求めることがある。

教科書：「高等学校物理」（啓林館）

[物理・応用物理実験]（物理教室）、 問題集：「 センサー物理」（啓林館）

[学業成績の評価方法および評価基準] 講義に関しては、前期末・後期中間・学年末の3回の試験の平均点で評価する。ただし、60点を取得できない場合は、それを補うための再試験を学年末を除く2回の試験について行う。その場合の評価は、60点を上限として評価する。実験は、レポートで評価し、講義の評価の平均点の75%と実験の評価の25%を加えた点を最終的な評価とする。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気工学基礎	平成17年度	飯田 和生	3	後期	1	選

<p>[授業の目標]</p> <p>電気系以外の工学の各分野においても不可欠な電気・電子装置の動作原理を理解し、運用できる知識の習得を目標に、電気・電子工学の基礎及び計測への応用について学習する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>学習教育目標(B)<専門>に対応</p> <p>第1週 電気現象と他の物理現象の類似性と相違点 発電所からコンセントまで</p> <p>第2週 直流回路</p> <p>第3週 電流の磁気作用 ・磁気概念 ・電流と磁界 ・電磁誘導</p> <p>第4週 交流回路 ・交流 ・交流での素子の振る舞い</p> <p>第5週 ・位相</p> <p>第6週 ・記号法 ・交流のベクトル表示</p> <p>第7週 電気計測 ・電気測定器</p>	<p>第8週 中間試験</p> <p>第9週 電気計測 ・測定器と計測法 ・計測に伴う誤差</p> <p>第10週 ・SI単位</p> <p>第11週 電気機器と電気材料</p> <p>第12週 照明・光源 ・白熱電球</p> <p>第13週 ・蛍光灯、ナトリウムランプ</p> <p>第14週 ・水銀灯、キセノンランプ</p> <p>第15週 電熱などの電気応用</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>◆緒論 (A)<視野><倫理></p> <p>1. 電気エネルギーの発生と利用形態について理解している。</p> <p>2. 電気・磁気量の物理的な意味と単位を理解している。</p> <p>◆直流回路 (B)<専門></p> <p>3. 電流の定義と電流密度について説明できる。</p> <p>4. オームの法則により電圧・電流・抵抗の物理的説明ができる。</p> <p>5. キルヒホッフの法則により、直流回路網を解くことができる。</p> <p>◆電流の磁気作用 (B)<専門></p> <p>6. 磁界と磁束密度および磁束線について説明できる。</p> <p>7. 右ねじの法則を説明でき、簡単な磁束線描図ができる。</p>	<p>8. 電磁誘導現象について理解し、右手の法則を説明できる。</p> <p>◆交流回路 (B)<専門></p> <p>9. 正弦波交流の実効値、最大値、瞬時値について説明できる。</p> <p>10. 力率について理解し、交流電力の計算ができる。</p> <p>11. 交流回路要素としてのLとCの意味と動作を理解している。</p> <p>12. 電圧電流の複素数表示と計算法を理解している。</p> <p>◆電気計測 (B)<専門></p> <p>13. 計測に及ぼす誤差要因を意識した計測ができる。</p> <p>14. 各種アナログ計測器の動作原理を理解する。</p> <p>◆電気応用 (B)<専門></p> <p>15. 照明器具、電熱の原理について理解する。</p>
<p>[注意事項] いろいろな電気の分野の項目を広く浅く学習するので、各項目の区切り毎に章末問題などを利用して理解度を各自チェックする。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 3年生までに物理で既習の電気、磁気に関する基礎事項。 三角関数、指数関数、複素数、ベクトルおよび微積分の基本事項。</p>	
<p>[レポート等] なし</p>	
<p>教科書：「図解 電気工学入門」 佐藤一郎著 (日本理工出版会)</p> <p>参考書：理系向けの電気電子工学入門書</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・期末の2回の試験の平均点で評価する。ただし、中間試験で60点に達しなかったものについては再試験を行い、60点を上限として再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理Ⅲ	平成17年度	箕浦 弘人	3	前期	1	必

<p>[授業の目標]</p> <p>実践的な情報処理問題について、アルゴリズムを組み立て、C言語プログラムを設計する知識と技術を習得する。また、プログラム作成時に生じた問題について、解決策を自ら調査し、問題を解決する能力を習得する。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>下記授業内容はすべて、材料工学科学習・教育目標(B)〈基礎〉に対応する。</p> <p>(前期)</p> <p>第1週 関数(1)</p> <p>第2週 関数(2)</p> <p>第3週 演習</p> <p>第4週 ファイル処理(1)</p> <p>第6週 ファイル処理(2)</p> <p>第7週 演習</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>(後期)</p> <p>第9週 ポインタの基礎</p> <p>第10週 演習</p> <p>第11週 構造体の基礎</p> <p>第12週 演習</p> <p>第13週 構造体とポインタ</p> <p>第14週 演習</p> <p>第15週 総合演習</p>
<p>[この授業で習得すべき「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイル処理の概念を理解し、説明することができる。 2. ファイルのオープン・クローズができる。 3. ファイルからのデータ入力ができる。 4. ファイルへのデータ出力ができる。 5. 文字列からのデータ入力、及び文字列への出力ができる。 6. 文字列処理のための関数を用いることができる。 7. ファイル処理を必要とする情報処理問題について、アルゴリズムを組み立て、C言語プログラムを設計することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 関数の概念を理解し、説明することができる。 9. ローカル変数およびグローバル変数を理解している。 10. 値渡しによる関数を作成できる。 11. 参照渡しによる関数を作成できる。 12. 配列変数の受け渡しを行う関数を作成できる。 13. 関数を必要とする情報処理問題について、アルゴリズムを組み立て、C言語プログラムを設計することができる。 14. ポインタの概念を理解し、活用することができる。 15. 構造体の概念を理解し、活用することができる。
<p>[注意事項] 積極的な取り組みを期待する。問題が生じた場合は教科書や参考書を熟読し、自分で問題を解決するように努めること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 情報処理Ⅰで習得したOSの操作方法および情報処理Ⅱで習得したアルゴリズムおよびC言語の基礎を十分理解している必要がある。</p>	
<p>[レポート等] 適宜、プログラミングに関するレポートを課す。</p>	
<p>教科書：「C言語」 河西朝雄著(ナツメ社) および配布プリント</p> <p>参考書：「Cによる理工学問題の解法」 佐藤・中村・伊藤著(日刊工業新聞社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法]</p> <p>前期中間・前期末の平均点を80%、レポートを20%として評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料組織学	平成17年度	小林 達正	3	通年	2	必

〔授業の目標〕 材料は、その製造履歴により組織が多様に変化し、それに応じて性質が変化する。この材料の組織を系統的に調べる学問が、材料組織学である。当科目では、基本である平衡状態図を理解した上で、熱的条件下で材料が示す諸性質の変化の機構についての基礎知識を身につけることを目標とする。また、授業で得た知識を材料に関する身近な問題に適用し、問題を解決する力を身につけることをめざす。

〔授業の内容〕 全ての内容は、学習・教育目標（B）〈専門〉および JABEE 基準 1(1)(d)(1) に対応する。

前期

◆平衡状態図

- 第1週 平衡状態図（物質系の平衡状態と相律、1成分系状態図、熱分析）
- 第2週 2成分系状態図とてこの法則、2相分離型（B）〈専門〉
- 第3週 全率固溶体状態図
- 第4週 共晶型状態図
- 第5週 包晶型状態図
- 第6週 偏晶型状態図および中間層生成型状態図
- 第7週 成分金属格子変態型およびモテクト型状態図
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 中間試験の結果に基づく復習および Fe-C 系状態図
- 第10週 Fe-C 系状態図
- 第11週 2成分系状態図の作成および演習問題
- 第12週 3成分系状態図（濃度表示法、全率固溶体型）
- 第13週 3成分系状態図（3相共存型その i）
- 第14週 3成分系状態図（3相共存型その ii）
- 第15週 3成分系状態図（4相共存型）

後期

◆平衡状態図

- 第1週 2成分系合金の自由エネルギー
- 第2週 自由エネルギー曲線と状態図
- 第3週 状態図のまとめ

◆拡散

- 第4週 拡散（金属結晶中の銀糸の拡散機構、フィックの拡散法則）
- 第5週 拡散（フィックの第2法則の解）
- 第6週 拡散（相互拡散係数、カーケンダー効果）
- 第7週 拡散（拡散係数の温度変化）、拡散のまとめ
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 回復および再結晶（加工硬化と焼き鈍し、回復）
- 第10週 回復および再結晶（再結晶）

◆相変態

- 第11週 相変態（純金属の凝固）
- 第12週 相変態（合金の一方向凝固）
- 第13週 相変態（合金の一方向凝固、共晶凝固）
- 第14週 相変態（析出、共析）
- 第15週 相変態（マルテンサイト変態）

(次ページにつづく)

授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
材料組織学 (つづき)	15011	小林 達正	3	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>◆平衡状態図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1成分系・2成分系状・3成分系状態図に関する基礎的事項の理解。 平衡状態図に基づき相変化を説明できる。 与えられた条件で2成分系状態図が作成できる。 Fe-C系状態図にもとづき炭素鋼の標準組織を説明できる。 2成分系状態図を自由エネルギー曲線により説明できる。 <p>◆拡散</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 結晶中の拡散機構について説明できる。 7. フィックの拡散法則の解に基づき、拡散元素の濃度を求めることができる。 8. 拡散係数の温度依存性についての理解。 	<p>◆再結晶</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 再結晶過程および再結晶後の組織変化を説明できる。 10. アレニウス型の速度式に関する基礎的な計算ができる。 <p>◆相変態</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 融液中の核生成の基礎的事項について説明できる。 12. 凝固における溶質の分布について説明できる。 13. 凝固条件と組織の関係の基礎的事項について説明できる。 14. 析出に関する基礎的事項について説明できる。 15. マルテンサイト変態についての基礎的事項について説明できる。
[注意事項]	
[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]	
材料結晶学，微分積分Iで学んだ項目については十分に理解しているものとして講義を進める。	
[レポート等] 理解を深めるため，適時演習課題を与える。	
教科書：「基礎金属材料」渡邊，斎藤共著（共立出版） 参考書：「図解合金状態図」横山亨（オーム者），「金属組織学」須藤，田村，西澤共著（丸善）その他，材料組織学に関する参考書は図書館に多数ある。	
[学業成績の評価方法および評価基準]	
前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし、学年末試験をのぞく3回の試験のそれぞれについて60点に達していないものには再試験をそれぞれ1回のみ課し、再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。	
[単位修得要件]	
学業成績で60点以上を取得すること。	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料強度学 I	平成17年度	井上 哲雄	3	通年	2	必

[授業の目標]

(前期) では、応力とひずみの概念および金属材料の強度特性、降伏現象および結晶欠陥等について学習する
(後期) では、結晶の強度特性と転位、すべり面・すべり系および材料の強化メカニズムについて学習する。

[授業の内容]

前期

材料工学科 学習・教育目標(B) <専門>および JABEE 基準 1(1)の (d) (2)a) に対応

- 第1週 授業の概要説明および応力とひずみの概念
- 第2週 応力とひずみ応答
- 第3週 材料の弾性的性質
- 第4週 材料の引張り特性
- 第5週 真応力と真ひずみ
- 第6週 塑性域での応力-ひずみ線図
- 第7週 硬さおよび材料特性のばらつき
- 第8週 中間試験
- 第9週 転位について
- 第10週 単結晶におけるすべり
- 第11週 多結晶の塑性変形
- 第12週 金属の強化 I
- 第13週 金属の強化 II
- 第14週 回復と再結晶
- 第15週 前期の復習および計算演習

後期

材料工学科 学習・教育目標(B) <専門>および JABEE 基準 1(1)の (d) (2)a) に対応

- 第16週 延性破壊
- 第17週 脆性破壊
- 第18週 破壊力学の基礎
- 第19週 繰り返し応力と S-N 曲線
- 第20週 き裂の発生と進展
- 第21週 疲労寿命に影響因子
- 第22週 クリープ
- 第23週 高温用材料
- 第24週 中間試験
- 第25週 焼きなまし処理
- 第26週 応力除去
- 第27週 鋼の熱処理 (焼入れ性)
- 第28週 鋼の熱処理 (冷却媒、形状の影響)
- 第29週 析出硬化とその機構
- 第30週 計算演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料強度学 I (つづき)	平成17年度	井上 哲雄	3	通年	2	必

<p>この授業で習得する「知識・能力」</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 弾性変形と塑性変形の違いが理解できる 応力とひずみの概念が理解でき、その計算問題が解ける 真応力および真ひずみが理解でき、その計算問題が解ける フックの法則および応力-ひずみ線図が理解でき、ポアソン比等の計算が出来る 硬さの概念が理解でき、材料特性のばらつきを説明できる 転位の基礎的概念が理解できる すべり系が理解できる 金属の強化機構が説明できる 金属の回復、再結晶が理解できる 材料強度学で使用する technical term が理解できる 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 延性破壊、脆性破壊が理解できる 破壊力学の基礎が理解できる。 S-N 曲線が解し、それに関する計算問題が解ける き裂の発生と進展が理解できる クリープについて理解し、その計算問題が解ける 焼きなまし処理が理解できる 鋼の熱処理について理解できる 析出硬化について理解でき、その機構が説明できる
<p>[注意事項]</p> <p>授業時間中に計算問題を多く解くので電卓は必ず持参すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>数学の基礎 (自然対数、微分、積分)、結晶学の基礎 (ミラー指数等)</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるため、演習課題を与えることもある</p>	
<p>教科書：材料の科学と工学2「金属材料の力学的性質」 W.D.キリスr-著、培風館</p> <p>参考書： 材料科学2 (材料の強度特性) C.R.パレット他 培風館。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、前期末、後期中間、学年末の試験の平均点を80%、授業中に行う小テスト等の平均点を20%として評価する。ただし、それらの試験において60点に達していない者には再試験を行う場合もある。再試験の成績評価は、該当する本試験の成績を上回った場合のみ、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換える。</p> <p>[単位取得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料熱力学	平成17年度	岡部 純一	3	通年	2	必

[授業の目標]

化学熱力学は物質の構造・性質およびその物理的・化学的变化を物理学的手法を用いて総合的に取り扱う物理化学のバックボーンとなる学問で、個々の物質や材料を理解する上での基礎を確立する授業として位置づけられる。材料熱力学では、熱力学の修得に重点をおき、材料製造プロセスや材料の循環利用に関わる演習課題を多く与えて応用力の養成を図る。

[授業の内容]

材料工学科 学習・教育目標 (B) <基礎>に該当する。JABEE 基準1 (1) (C) に該当する。

前期

- 第1週 化学の基礎と物理化学
- 第2週 仕事と熱
- 第3週 理想気体の状態方程式
- 第4週 計算演習
- 第5週 エネルギーとその保存即
- 第6週 熱力学第一法則
- 第7週 エンタルピーと熱容量
- 第8週 中間試験
- 第9週 熱化学 (1)
- 第10週 熱化学 (2)
- 第11週 材料熱化学・計算演習
- 第12週 可逆性と平衡
- 第13週 カルノーサイクル
- 第14週 エントロピーと熱力学第2法則
- 第15週 計算演習

後期

- 第1週 化学系の平衡
- 第2週 ギブスの自由エネルギー
- 第3週 相平衡
- 第4週 化学ポテンシャル
- 第5週 質量作用の法則
- 第6週 エリンガムのダイアグラム
- 第7週 計算演習
- 第8週 中間試験
- 第9週 理想溶液
- 第10週 束一的性質
- 第11週 活量と活量係数
- 第12週 非理想溶液
- 第13週 気体の熱力学
- 第14週 材料プロセスにおける溶液論
- 第15週 計算演習

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 仕事と熱の対応を理解する。
2. 理想気体の状態方程式を使って計算が出来る。
3. ミクロな立場から気体状態が理解できる。
4. 気体分子運動論を使って計算が出来る。
5. 熱力学第一法則が理解できる。
6. エンタルピーの概念がわかる。
7. 熱容量が求められる。
8. 熱力学第一法則を気体状態に適応できる。
9. 反応熱の計算が出来る。
10. 材料化学の分野の計算に、熱化学が応用できる。
11. カルノーサイクルが理解できる。
12. 熱力学第2法則が理解できる。
13. エントロピーの概念がわかる。
14. エントロピーの計算が出来る。
15. 熱力学第3法則が理解できる。
16. 材料化学の分野に熱力学第2, 3法則が適用できる

17. 自由エネルギーの概念が理解できる。
18. 自由エネルギーの計算が出来る。
19. 平衡の概念が理解できる。
20. 質量作用の法則が理解できる。
21. 気体系の化学平衡の計算が出来る。
22. エバンス図を読みとることが出来る。
23. 材料プロセスでの化学平衡が計算できる。
24. 熱力学に基づいて溶液が理解できる。
25. 束一的性質がわかる。
26. 理想溶液と非理想溶液の違いがわかる。
27. 活量の概念がわかる。
28. 材料プロセスに溶液論が応用できる。

[注意事項]

前期中間までにねつりがく第1法則を講義する。前期末までに熱力学第2法則とその応用を講義する。後期中間までに化学平衡論とその応用を講義する。後期末までに溶液論とその応用を講義する。熱力学においてはただ単に理解するだけでなく、具体的事例に応用できる能力を付けることが極めて重要であるから、演習を出来るだけ多く取り入れて講義を進める。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

高校程度の化学の基礎は十分理解しているものとして講義を進める。数学は微分積分学は不可欠である。微分積分学の未習得の部分は講義の中で補足しながら進める。

[レポート等]

各単元終了毎に演習課題を与え、レポートの提出を求める。

教科書：「基礎化学熱力学」 E. B. スミス著 小林宏、岩橋槇夫訳 (化学同人)

参考書：「物理化学」 W. J. ムーア著 藤代亮一訳 (東京化学同人)

[学業成績の評価方法および評価基準]

前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点にレポート課題の結果を10%加味して評価する。ただし、学年末試験を除く3回の試験それぞれについて60点に達していないものには再試験を課し、再試験の結果が該当する試験の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの試験の成績を、再試験の成績で置き換えるものとする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
有機化学	平成17年度	下古谷博司	3	通年	2	必

[授業の目標]

有機化学は、有機化合物の製法、性質、反応、用途などを研究する化学の1部門である。授業では、命名法、分子構造、化学的性質、立体化学等の基本的事項をしっかりと理解してもらうのが目的である。これにより有機化学に興味を持てるようにする。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標 (B) <基礎> , JABEE 基準 1 (1) (c) に対応する

前期

- 第1週 有機化学とは何か
- 第2週 有機化合物の命名法1
- 第3週 有機化合物の命名法2
- 第4週 有機化合物の命名法3
- 第5週 有機化合物の命名法4
- 第6週 有機化合物の命名法5
- 第7週 有機化合物の命名法6
- 第8週 中間試験
- 第9週 水素原子と炭素原子
- 第10週 共有結合と簡単な分子の構造
- 第11週 二重結合 (三重結合) と分子内分極
- 第12週 I 効果とE効果
- 第13週 共鳴現象
- 第14週 酸と塩基と化学平衡1
- 第15週 酸と塩基と化学平衡2

後期

- 第1週 置換反応について
- 第2週 S_N1 反応と S_N2 反応
- 第3週 S_Ni 反応と S_N2' 反応
- 第4週 不斉中心と絶対配置1
- 第5週 不斉中心と絶対配置2
- 第6週 二重結合への付加反応
- 第7週 トランス付加の機構
- 第8週 中間試験
- 第9週 脱離反応
- 第10週 異性体と立体化学1
- 第11週 異性体と立体化学2
- 第12週 異性体と立体化学3
- 第13週 カルボニル基の反応
- 第14週 カルボニル基の反応
- 第15週 カルボニル基の反応

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
有機化学 (つづき)	平成17年度	下古谷博司	3	通年	2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期・前半</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルカン, アルケン, アルケンの命名ができる. 2. アルコール, エーテル, アルデヒド, ケトン, カルボン酸, エステル等の命名ができる. 3. IUPAC名で記された有機化合物を化学式で表せる. 4. 代表的な化合物の慣用名がわかる <p>前期・後半</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. s軌道, p軌道, d軌道および原子の電子配置や各種混成軌道 (sp, sp^2, sp^3) について説明できる. 2. 電気陰性度および分極を説明できる. 3. 誘起効果と電子異性効果が説明できる. 4. π電子の非局在化, 非局在化エネルギー, 共鳴現象について説明できる. 5. 酸・塩基の定義や性質を理解し, 化学平衡やpHなどの簡単な計算ができる. 	<p>後期・前半</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種求核置換反応の機構及び特徴や反応への影響について説明できる 2. 不斉炭素の絶対配置 (R, S) を示すことができる 3. フマル酸とマレイン酸を用いて二重結合への付加がトランスであることを説明できる 4. トランス付加のメカニズムを簡単に説明できる 5. HXの二重結合への付加反応の法則について説明できる <p>後期・後半</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. α, β, γ脱離や脱離反応の機構や特徴について説明できる 2. 化合物の構造をニューマン投影法で表現できる 3. シクロヘキサンの舟形と椅子形の説明ができる 4. 鏡像異性体とジアステレオマーについて説明ができる 5. アセタール化, パーキン縮合反応, アルドール縮合など種々の反応の機構と特徴を簡単に説明できる
<p>[注意事項]</p> <p>前半には主として有機化合物の命名法と分子構造など基礎的な事項について解説する。初めて耳にする言葉が多く暗記せねばならないことが必然的に多くなるので毎日復習することを期待する。後半では置換反応など各種反応について解説するので充分理解してほしい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>一般化学で学ぶ基本的な事項を充分に理解しておいて欲しい。また、数学一般についても勉強しておいて欲しい。</p>	
<p>[レポート等] なし</p>	
<p>教科書: 「有機電子論解説」 井本稔著 (東京化学同人)、資料配付 参考書: 「簡明化学命名法」 岡田功編 (オーム社)、 「有機化学の基礎」 MONSON SHELTON 後藤俊夫訳 (東京化学同人)、その他図書館に多数あり。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし, 学年末試験を除く3回の試験のそれぞれについて60点に達していない者には再試験を課し, 再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には, 60点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を習得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料工学設計製図Ⅰ	平成17年度	梶野 利彦	3	前期	1	必

[授業の目標] 材料工学設計製図は、材料工学の技術分野を専攻した学生に要求される製図能力、設計能力および創造デザイン能力を養うための科目である。材料工学設計製図Ⅰでは、実際の機械要素の製図を通して、図面の中で使われる各種の表記法やそれらの意味の理解、および製図能力の養成を目標としている。材料工学科教育目標(B)<基礎><専門>、JABEE基準1(1)(d)(1)

<p>[授業の内容]</p> <p>全ては、材料工学科 学習・教育目標専門に相当する</p> <p>第1週 製作図のつくり方と元図の書き方</p> <p>第2週 機械要素の製図：ねじの基本と図示の仕方</p> <p>第3週 機械要素の製図：ボルト・ナット・小ねじ・止めねじ</p> <p>第4週 製図演習：ボルト・ナット・小ねじの製図</p> <p>第5週 製図演習：ボルト・ナット・小ねじの製図</p> <p>第6週 製図演習：ボルト・ナット・小ねじの製図</p> <p>第7週 製図演習：ボルト・ナット・小ねじの製図</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 面の肌と表記法について</p> <p>第10週 はめあい、幾何公差について</p> <p>第11週 機械要素の製図：軸と軸継手</p> <p>第12週 製図演習：フランジ型たわみ軸継手（実物）のスケッチ</p> <p>第13週 製図演習：フランジ型たわみ軸継手の製図</p> <p>第14週 製図演習：フランジ型たわみ軸継手の製図</p> <p>第15週 製図演習：フランジ型たわみ軸継手の製図</p>
<p>この授業で習得する「知識・能力」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 製作図の作成することができる。 2. 元図の書き方が理解できる。 3. ねじの基本が理解でき図示することができる。 4. ボルト・ナット・小ねじを正確に図示できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 面の肌およびその表記法が理解できる。 6. はめあいについて理解できる。 7. 幾何公差を理解することができる。 8. スケッチ図から製作図を作成することができる。
<p>[注意事項] 中間試験までにボルト・ナット・小ネジの製図図面を仕上げる。また、前期末までにフランジ型たわみ軸継手（規格の異なる10種）を小グループでスケッチおよび寸法計測し製図図面に仕上げる。期限内に図面に仕上げることは技術者として不可欠であるので、提出期限を守り、レポートを提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] これまでに学んだ機械製図法の基礎は十分身につけているものとして講義を進める。</p>	
<p>[レポート等] 「ボルト・ナット・小ネジ」および「フランジ型たわみ軸継手」の計2枚の製作図の提出以外に、講義の内容を理解する上で必要と思われる演習課題をレポートとして課すことがある。</p>	
<p>教科書：「機械製図」 林 洋次 監修 （実教出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法]</p> <p>各自に課せられたすべてのテーマ(課題)の製図およびレポートをそれぞれ100点満点で評価し、その平均点により評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料工学実験実習	平成17年度	小倉, 小林, 兼松 下古谷, 和田	3	通年	4	必

[授業の目標]

材料工学に関する基礎的な事項を実験実習によって理解し、あわせて実験の実行およびデータの解析や実験技術を修得する。

[授業の内容]

全ての内容は学習・教育目標 (B) <専門>及び<展開>, JABEE 基準 1(1) (d) (2)b)に対応する。

クラス全体を4グループに分け、3週にわたって1つのテーマの実験実習を行う。なお、前期に(1)～(4)、後期に(5)～(8)のテーマを行う。

<前期>

- (1) 直流電圧加算回路の特性評価 (小倉)
 - 第1週: プレットボードによる直流電圧加算回路の作製
 - 第2週: 出力特性等の評価
 - 第3週: 実験データの整理とレポートの作成
- (2) 反転直流増幅回路の特性評価 (小倉)
 - 第1週: プレットボードによる反転直流増幅回路の作製
 - 第2週: 出力特性等の評価
 - 第3週: 実験データの整理とレポートの作成
- (3) 材料試験 (小林)
 - 第1週: ビッカース硬さ試験
 - 第2週: 引張試験およびシャルピー衝撃試験
 - 第3週: 組織観察

(6) 光学顕微鏡を用いたマイクロ組織観察 (下古谷)

- 第1週: 鉄鋼材料の組織観察
- 第2週: 非鉄金属材料の組織観察
- 第3週: 実験結果の報告会

<後期>

- (5) 材料特性 (兼松)
 - 第1週: 示差熱分析
 - 第2週: 熱膨張測定
 - 第3週: 電気抵抗の温度変化
- (4) 熱分析によるPb-Sn二元系状態図の作成 (下古谷)
 - 第1週: Pb-Sn合金(亜共晶)の熱分析
 - 第2週: Pb-Sn合金(過共晶)の熱分析
 - 第3週: 実験結果の報告会
- (7) 非反転直流増幅回路 (和田)
 - 第1週: プレットボードによる非反転直流増幅回路の作製
 - 第2週: 出力特性等の評価
 - 第3週: 実験データの整理とレポートの作成
- (8) コンパレータ (和田)
 - 第1週: プレットボードによるコンパレータ回路の作製
 - 第2週: 出力特性等の評価
 - 第3週: 実験データの整理とレポートの作成

[この授業で習得する「知識・能力」]

<前期>

1. 電子回路の作製技術を習得する。
2. 電子部品の規格等が分かる。
3. オペアンプの動作について理解できる。
4. 直流電圧加算回路の動作が理解できる。
5. 反転直流増幅回路の動作が理解できる。
6. 金属材料の組織観察法を習得する。
7. 冷却曲線より共晶型状態図を作成できる。
8. ビッカース硬さ試験の試験法を習得する。
9. 引張り試験およびシャルピー衝撃試験の試験法を習得する。
10. 亜共析鋼の熱処理による機械的性質の変化を理解する。
11. 亜共析鋼の熱処理による組織変化を理解する。

<後期>

12. 示差熱分析による相変態点の測定法を習得する。
13. 熱膨張測定による相変態点の測定法を習得する。
14. 金属の電気抵抗の測定法を習得する。
15. 金属の電気抵抗の温度変化について理解する。
16. ON-OFF制御による温度制御について理解する。
17. 熱分析による状態図の作成方法を習得する。
18. 非反転直流増幅回路の動作が理解できる。
19. コンパレータの動作が理解できる。

[注意事項]

- (1) 予め実験指導書をよく読んでおく。
- (2) 作業服(上・下)に着替える。
- (3) 2年生で使用した実験ノートを持参すること。
- (4) 欠席および遅刻はしないこと。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 既習の事項は、しっかりと復習しておく。

[レポート等] レポートは、各自が所定の書式により、所定の期日までに提出する。

教科書: 実験指導書 (プリント)

参考書: A・・・「オペアンプ回路」について種々のものがある。

B・・・日本金属学会編「新制金属講座・測定検査編」ほか。

[学業成績の評価方法および評価基準]

評価は、提出物の評価点(100点満点)の平均点として評価する。ただし、提出期限が遅れた場合、その提出物の評価点から10点の減点をする。また、未提出のレポートおよび作成物がある場合最終評価を59点とする。

[単位修得要件]

学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料工学設計製図Ⅱ	平成17年度	岡部 純一	3	後期	1	選

[授業の目標]
 材料工学設計製図は材料工学の技術分野を専攻した学生に要求される製図能力および設計能力を養うための科目で、3年次では機械要素の設計製図をその内容としている。材料工学設計製図Ⅱでは設計の要素を加味した課題を与え、設計の能力の養成を第一の目標とし、同時に設計のコンセプトをいかに図面にあらわすかを学ぶ。

<p>[授業の内容] 材料工学 学習・教育目標 (B) <基礎> に該当する</p> <p>第1週 設計法の概要</p> <p>第2週 軸受けメタルの設計法の説明</p> <p>第3週 軸受けメタルの設計</p> <p>第4週 軸受けメタルの製作図の製図(1)</p> <p>第5週 軸受けメタルの製作図の製図(2)</p> <p>第6週 ラジアルすべり軸受けの設計法の説明</p> <p>第7週 ラジアルすべり軸受けの設計(1)</p>	<p>第8週 ラジアルすべり軸受けの設計(2)</p> <p>第9週 ラジアルすべり軸受けの製図(1)</p> <p>第10週 ラジアルすべり軸受けの製図(2)</p> <p>第11週 ラジアルすべり軸受けの製図(3)</p> <p>第12週 ラジアルすべり軸受けの図面の完成と検図</p> <p>第13週 歯車の設計法の説明</p> <p>第14週 すぐ歯かさ歯車の設計</p> <p>第15週 すぐ歯かさ歯車の設計</p>
---	---

<p>(この授業で習得すべき「知識・能力」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 強度計算に基づいて設計する能力。 2. 製作するものの機能を考える能力 3. 安全性、経済性、美的調和などを総合的に考えてデザインする能力 4. 機械要素への理解度。 5. 図面の製図規則に基づく正確さ。 6. 製図作品のできばえ。 7. 期限までに仕上げる製図能力 	
---	--

[注意事項] 12回目までに軸受の講義とその設計製図の実習を行う。後期末までに歯車の講義とその設計製図の実習を行う。本授業においては実習が極めて重要で、提出されたレポートおよび図面で評価を行う。時間に余裕があればその他の機械要素についての概説の講義も併せて行う。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] これまでに学んだ機械製図法の基礎知識および力学の基礎は十分理解しているものとして講義を進める。機械力学の未習得の部分は講義の中で補足しながら進める。

[レポート等] 異なる設計製図課題を各学生に与え、計算書および製作図の提出を求める。

教科書：「機械製図」 津村利光・徳丸芳男著（実教出版）
 参考書：「機械要素設計改訂版」 吉沢武男編（裳華房）

[成績評価の方法および評価基準]
 提出された作品および設計書から、設計に関して50%、製図に関して50%で評価する。

[単位修得要件]
 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
材料評価法	平成17年度	江崎 尚和	3	前期	1	選

<p>[授業の目標]</p> <p>材料の機械的性質を正確に把握することは、各種構造物の設計、構造材料の選択や構造物の寿命を推定する上でたいへん重要である。材料評価法では、材料を扱う技術者が一般常識として知っておかなければならない基本的な材料試験法についての知識を身につけることを目的とする。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>学習教育目標(B)<専門>に対応</p> <p>第1週 材料試験法の種類について</p> <p>第2週 材料試験用試料の調整方法とひずみの測定法</p> <p>第3週 試験データの整理のしかた</p> <p>第4週 引張り試験：応力-ひずみ曲線とその解釈</p> <p>第5週 引張り試験：材料に現れる諸現象と真応力-ひずみ曲線</p> <p>第6週 引張り試験：0.2%耐力、ひずみ硬化指数、ランクフォード値</p> <p>第7週 圧縮試験：応力とひずみの定義およびバウシinger効果</p> <p>第8週 中間試験</p>	<p>第9週 曲げ試験：曲げ試験の種類と曲げ応力の求め方</p> <p>第10週 せん断試験：せん断試験法とせん断応力</p> <p>第11週 衝撃試験：シャルピー試験と材料の低温ぜい性</p> <p>第12週 硬さ試験：ブリネル、ビッカース、ロックウェル、ショアー硬さ試験の原理</p> <p>第13週 疲労試験：材料の疲労現象とSN曲線</p> <p>第14週 クリーブ試験：材料のクリープ現象とクリープ曲線</p> <p>第15週 材料の非破壊検査：放射線検査、超音波探傷、磁気探傷、浸透検査の原理</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>学習教育目標(B)<専門>に対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 各種材料試験法の目的、特徴、違いが理解できる。 試験片作成上の注意点を把握している。 試験データについて最確値、標準誤差、確率誤差の計算ができる。 軟鋼の応力-ひずみ曲線を示し主要部分の名称が書ける。また、各部分で起こる現象が説明できる。 引張りおよび圧縮試験において、公称応力、公称ひずみ、真応力、真ひずみの計算ができる。 0.2%耐力、ひずみ硬化指数、ランクフォード値、バウシinger効果、について説明できる。 材料組織と降伏強度の関係を理解している。 	<ol style="list-style-type: none"> 簡単な曲げ応力計算ができる。 せん断応力の計算ができる。 シャルピー衝撃試験の原理を理解し、材料のシャルピー衝撃値、衝撃吸収エネルギーの計算ができる。 延性-ぜい性遷移温度について理解している。 代表的な4つの硬さ試験について、測定原理と特徴が説明できる。 疲労試験における典型的なSN曲線を示し、曲線の意味、主要部の名称が書ける。 クリープ試験で得られるクリープ曲線を示し、曲線の意味、主要部の名称が書ける。 代表的な非破壊検査についてその原理と特徴が説明できる。
<p>[注意事項] 材料技術者あるいは研究者にとって、材料を評価する手法を常識として身につけておくことはきわめて大切である。この授業では、できる限り多くの材料評価法を紹介する。各試験の目的をよく理解し、必要に応じて使い分けられるようになることが大切である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 簡単な応力計算、材料組織に関する基礎知識はすでに習得しているものとして授業を進める。</p>	
<p>[レポート等] 授業内容についてより理解を深めるため、できるだけ多くの課題演習を授業に取り入れる。</p>	
<p>教科書：ノート講義（プリント資料）</p> <p>参考書：「材料試験法」 須藤 一著（内田老鶴圃） その他</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・期末の2回の試験の平均点で評価する。ただし、中間試験で60点に達しなかったものについては再試験を行い、60点を上限として再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I A	平成 17 年度	奥村 紀美	3 留学生	通 年	2	選

[授業の目標]

本授業の受講生である外国人留学生はすでに基本的な日常会話を習得しているとはいえ、実際の高専生活においてはまだまだ「言葉」や日本における生活習慣の違いに戸惑わざるを得ない状態である。社会生活及び高専生活の中では自分の意思を伝達するために、説得力のある表現技術が要求される。一方、表現は他者との関係で成り立つものである。また、これらを可能にするためには表現の及ぶ相手を十分に理解することも大切であることを忘れてはならない。

そこで、本科目では「表現することのよこび」を学ぶことを柱に据え、より具体的には、「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」を学習することを目的とする。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野><意欲>、及び (C) の<発表>に対応する。

前期

- 第 1 週 「日本語教育 I A」授業の概要および学習方法
- 第 2 週 「表現することのよこび」・「ことばの役割」
(「初級段階の総復習」)
- 第 3 週 初級段階の総復習 (1) 「話す」
- 第 4 週 初級段階の総復習 (2) 「聞く」
- 第 5 週 初級段階の総復習 (3) 「読む」
- 第 6 週 初級段階の総復習 (4) 「書く」
- 第 7 週 初級段階の総復習のまとめ
- 第 8 週 前期中間試験
(「人と話す」)
- 第 9 週 中級段階の学習 (1) 「書く」①
- 第 10 週 中級段階の学習 (2) 「書く」②
(「話を聞く」)
- 第 11 週 中級段階の学習 (3) 「聞く」①
- 第 12 週 中級段階の学習 (4) 「聞く」②
(「会話の練習」)
- 第 13 週 中級実践学習 (1) 「会話」①
- 第 14 週 中級実践の学習 (2) 「会話」②
(「行動別の言語表現」 1)
- 第 15 週 (1) コミュニケーションの方法 (人間関係を作る・あいさつする・自己紹介をする
(2) 情報をやりとりする・説明する・報告をする・質問する・質問に答える
前期学習の総まとめ

第 1 週～15 週までの内容は、すべて JABEE1, (1), (f) に相当する。

後期

- 第 1 週 「日本語を学ぶ意義」の再確認
(「本を読む」)
- 第 2 週 中級段階の学習 (5) 「読む」①
- 第 3 週 中級段階の学習 (6) 「読む」②
- 第 4 週 中級段階の学習 (7) 「読む」③
(「文章を書く」)
- 第 5 週 中級段階の学習 (8) 「書く」①
- 第 6 週 中級段階の学習 (9) 「書く」②
- 第 7 週 中級段階の学習 (10) 「書く」③
- 第 8 週 後期中間試験
(「文法・文型」の学習)
- 第 9 週 「文法・文型」の学習 (1)
- 第 10 週 「文法・文型」の学習 (2)
(「作文の作成」)
- 第 11 週 「作文の作成」 (1)
- 第 12 週 「作文の作成」 (2)
- 第 13 週 「作文の作成」 (3)
(「行動別の言語表現」 2)
- 第 14 週 (3) テーマに即して説明・発表する
(4) 発表者に対し疑問点を質問する
(5) 質問されたことを踏まえて回答し、対話する
- 第 15 週 授業の年間のまとめ
授業アンケート実施

授業科目名	科目コード	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I A (つづき)	10301	奥村 紀美	3 留学生	通 年	2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(「表現のよこび」)</p> <p>1. 感じたこと、考えたことを、自分の声、自分の文字で正しく発表し、日常会話への自信に繋げる。</p> <p>(「初級段階の総復習」)</p> <p>1. 「文章を書く」、「人と話す」、「本を読む」、「話を聞く」の初級段階のすべての項目について総復習する。</p> <p>2. 言語表現における基本的な心がまえを学習する。</p> <p>(「文章を書く」)</p> <p>1. 中級程度の漢字・単語・慣用句表現を習得する。</p> <p>2. 身近な課題を基に作文を発表し、書き言葉としての日本語を習得する。</p> <p>(「人と話す」)</p> <p>1. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。</p>	<p>(「会話の練習」)</p> <p>1. 音声テープによる聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。</p> <p>(「行動別の言語表現」 1・2)</p> <p>1. それぞれの言葉の特性を知り、実際に使う時や場合を理解する。</p> <p>(「本を読む」)</p> <p>1. 日本語のテキストの文章を読み、新しく学ぶ漢字・語彙について学習する。</p> <p>2. 日本語の各種の文章を読み、各文章を読解、鑑賞する。</p> <p>3. 日本語の独特の表現方法を学ぶ。</p> <p>(「文法・文型」の学習)</p> <p>1. 日本語の現代文の文章の中から、基本的な文法を学ぶ。</p> <p>(「作文の作成」)</p> <p>1. 「作文」の作成技術の基本を学び、添削、推敲をする。</p> <p>2. 「作文」の作成技術の応用を学び、各自の必要に応じて、実践的な運用力を身につける。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>学習の対象が日本語の全分野にわたるため、積極的な取り組みを期待する。なお、授業中は真摯な態度で受講することをお願いすると同時に、疑問が生じたら直ちに質問すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>配布するプリントについて予習すること。</p>	
<p>[レポート等] 理解を深めるため、随時、演習課題を与える。</p>	
<p>教科書： プリント学習およびビデオ教材</p> <p>参考書： 英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典などを持参すること。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験（期末試験）により60%、レポート等により40%評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>定期試験、レポート等により学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
日本語教育 I B	平成 17 年度	奥村 紀美	3 留学生	後期	1	選

<p>[授業の目標]</p> <p>本授業では先の「日本語教育 I A」の学習を受けて、中級段階の実用的な日本語の習得を主目標にする。本科目では「表現することのよるこび」を学ぶことを柱に据え、具体的には、「口頭表現力」、「漢字」・「語彙」、「作文力」をより向上させる。</p> <p>また、表現は他者との関係で成り立つものである。そしてこれらを可能にするためには表現の及ぶ相手を十分に理解することも大切であることを忘れてはならない。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は学習・教育目標 (A) の<視野><意欲>、及び (C) の<発表>に対応する。</p> <p>第 1 週 「日本語教育 I B」授業の概要と学習方法 (「口頭表現力」の養成)</p> <p>第 2 週 中級段階入門編の総復習 (1)</p> <p>第 3 週 中級段階入門編の総復習 (2)</p> <p>第 4 週 「話す・聞く」学習 (「自己紹介」スピーチの練習①)</p> <p>第 5 週 「話す・聞く」学習 (「日常会話」応用) (「文章読解力の養成」)</p> <p>第 6 週 読解学習 (テキストの文章の読解①)</p> <p>第 7 週 読解学習 (テキストの文章の読解②)</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>(「漢字」・「語彙」・「作文力」の養成)</p> <p>第 9 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (1)</p> <p>第 10 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (2)</p> <p>第 11 週 実用用語 (漢字・語彙) の学習 (3) (「生活作文」学習)</p> <p>第 12 週 「生活作文」学習 (1)</p> <p>第 13 週 「生活作文」学習 (2)</p> <p>第 14 週 「生活作文」学習 (まとめ)</p> <p>第 15 週 日本語教育 I B の学習のまとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(「表現のよるこび」)</p> <p>1. 感じたこと、考えたことを、日本語で思う存分表現できることがすばらしいことであることを学ぶ。</p> <p>2. 表現の相手である日本人特有の感情や考え方を知り、日常のコミュニケーションに役立てる。 (「口頭表現力」の養成)</p> <p>1. 日本語らしい発音に留意しながら、自分の意志や意見を他者に円滑に伝達する能力を養う。</p> <p>2. 「自己紹介」スピーチや「日常会話」の応用の学習を通して、「口頭表現力」の知識と能力を身につける。</p> <p>3. テープによる聴解練習を通し、通常速度の会話文を正確に把握する能力を身につける。</p>	<p>(「文章読解力の養成」)</p> <p>1. テキストの文章を読み、新しい漢字・語彙を学ぶ。</p> <p>2. テキストの文章の書き手の意図を理解する。 (「漢字」・「語彙」・「作文力」の養成)</p> <p>1. 中級程度の漢字・単語・慣用句表現を習得する。</p> <p>2. 作文についての基礎技術について習得する。 (「生活作文」の学習)</p> <p>1. 身近な課題を基に作文を発表し、書き言葉としての日本語を習得する。 (日本語教育 I B の学習のまとめ)</p> <p>1. すべての学習を通して、日本語教育 II の学習の基礎にする。</p>
<p>[注意事項] 日本における実際の日常生活の中において、何事にも「積極的」、「意欲的」に取り組めるように努力する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 実際の日常生活において、分からない言葉やことがらなどをメモしておくこと。</p>	
<p>[レポート等] 授業で取り扱ったプリント、また、与えられた課題を提出する。</p>	
<p>教科書： テキストのプリント学習 日本語聴解テープ。</p> <p>参考書： 英和辞典、和英辞典、国語辞典、漢和辞典、その他、各自の学習のため教材。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験 (期末試験) により 60%、レポート等により 40% 評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>定期試験、レポート等により学業成績で 60 点以上を修得すること。</p>	